

国 語・芸 術（書道）

1 これからの国語科教育について

- 言語の教育としての立場を一層重視し、国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるとともに、実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることに重点を置いて内容の改善を図る。
- 特に、言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することや、我が国の言語文化に触れて感性や情緒を育むことを重視する。

2 これからの芸術科教育（書道）について（高等学校）

- 中学校国語科の書写との関連を考慮し、書の文化の継承と創造への関心を一層高めるために、書の文化に関する学習の充実を図るとともに、豊かな情操を養い、感性や想像力を働かせながら考えたり判断したりするなどの資質や能力の育成を図る。
- 感じ取る力や思考する力を一層豊かにするために、自分の思いを語り合ったり、自分の価値意識をもって批評したりするなどして、自分なりの意味や価値を作り出していくような鑑賞の指導を重視する。

3 全面実施に向けて、各学校において取組が求められること

小学校

- 新学習指導要領の趣旨を踏まえた年間指導計画の作成と改善
 - ・ 指導事項と言語活動の関連等を明記した年間指導計画の作成を進める。
- 新学習指導要領の趣旨を生かした単元や教材の開発
 - ・ 新たに充実した言語活動例を通して指導事項を指導する単元や教材を開発する。
 - ・ 学校図書館の機能を生かし、読書活動を効果的に取り入れる。
 - ・ 低学年における神話・伝承を扱った実践、中学年における易しい文語調の短歌や俳句を扱った実践など、新設した「伝統的な言語文化に関する事項」についての指導を充実する。

中学校

- 新学習指導要領の趣旨を踏まえた年間指導計画の作成と改善
 - ・ 指導事項と言語活動の関連等を明記した年間指導計画の作成を進める。
- 新学習指導要領の趣旨を生かした単元や教材の開発
 - ・ 新たに充実した言語活動例を通して指導事項を指導する単元や教材を開発する。
 - ・ 学校図書館の機能を生かし、読書活動を効果的に取り入れる。
 - ・ 第2学年における古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像することの指導を工夫した実践など、新設した「伝統的な言語文化に関する事項」についての単元や教材を開発する。

高等学校

- 新学習指導要領の趣旨を踏まえた年間指導計画の作成
 - ・ 科目構成及びその内容を十分に理解し、それぞれの学校に応じた年間指導計画の作成を進める。
- 新学習指導要領の趣旨を生かした授業の工夫や改善
 - ・ 言語活動の充実について、国語科で行うべきことと他教科で行うべきこととを相互の関連を踏まえて整理し、授業の改善を図る。
 - ・ 学校図書館の機能を生かし、読書活動を効果的に取り入れる。

4 国語科における言語活動の充実

- ・ 的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して伝え合う能力を育成することや我が国の言語文化に触れて感性や情緒をはぐくむことを重視する。
- ・ 特に、小学校の低・中学年において、漢字の読み書き、音読や暗唱、対話、発表などにより基本的な国語の力を定着させる。
- ・ 古典の暗唱などにより言葉の美しさやリズムを体感させるとともに、発達の段階に応じて、記録、要約、説明、論述といった言語活動を行う能力を培う。

5 思考力・判断力・表現力等の育成のための授業改善例

【小学校 第3学年】

本時の目標 — 物語を読んで感想を交流し、感じ方の違いに気づくことができる。		
学習活動	指導上の留意事項	評価規準（評価方法）
1 本時の学習内容 ○ 本時のめあてを知る。	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習で、「悲しい」という感想が多かったことを伝える。 	
「ちいちゃんのかげおくり」の中で一番悲しいと感じたところについて話し合おう。		
2 自分の感想をもつ。 ○ 自分が「一番悲しいと感じたところ」はどこかを確認しながら、全文を通して読む。 ○ 「一番悲しいと感じたところ」を抜き出す。また、そう感じたわけを短冊に書く。	<ul style="list-style-type: none"> 事前に、家庭学習で「一番悲しいと感じたところ」を選ばせておく。 選んだところや短冊の内容に応じて、あらすじを図示した黒板に貼らせる。 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="text-align: center;">考</p> <p>作品全体を通して読ませ、「悲しいと感じた」表現を選ばせる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="text-align: center;">ことばの力活用POINT</p> <p>文中の表現を引用させながら、自分の考え（感想）を説明させる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="text-align: center;">表</p> <p>その表現を選んだ理由を叙述や友達の発表と関連付けながら表現させる。</p> </div>
3 感想を交流し、感じ方の違いに気づく。 ○ 「一番悲しいと感じたところ」を、わけをそえて発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 友達の発表と関連付けながら発表できるように支援する。 	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> お母さんやお兄ちゃんとはぐれてしまうところ。 ちいちゃんが「お母さんたちは絶対に帰ってくる」と信じているところ。 ちいちゃんがきらきら笑って花畑の中を走りだすところ。そうしてひとりぼっちで死んでしまったから。等 </div>		
4 感想をさらに深める。 ○ 「心があたたかくなったところ」はないか考え、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 悲しい場面だけではなく、心があたたかくなるような場面も描かれていることに気付かせる。 	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> お父さんが出征する前の日にかげおくりをするところ。 ちいちゃんがきらきらわらいだしながら花畑の中を走りだすところ。夢の中で家族といっしょになれたから。 ちいちゃんがひとりでかげおくりをした場所が小さな公園になったところ。等 </div>		
5 本時のまとめと次時の予告 ○ 友達の感想を聞いて、考えたことや感じたことをノートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 「なるほど」と思った友達の感想を取り入れながらノートにまとめさせる。 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="text-align: center;">教</p> <p>一人一人の感じ方や読み方に違いがあることを確認する。</p> </div> <p>「読むこと」を交流したことを生かして、作品の感想を書いている。（ノート）</p>
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 戦争は家族や幼い子どもの命まで奪う悲しいものだと思った。 心があたたかくなったところもあるけど、やっぱり悲しいお話だと思った。 一人一人感じたことや考えたことがちがっていた。でも、戦争の悲しさや平和の大切さについてみんな感じていた。等 </div>		
○ 次時の学習内容を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 次時から、学校図書館を活用して、戦争を描いた他の児童文学作品を読み、紹介し合うことを伝える。 	

【中学校 第2学年】

本時の目標 ー 登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てることができる。

学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)		
<p>1 学習課題の設定</p> <p style="text-align: center;">父親の人物像をとらえ、筆者の父親への思いを考えよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> 次の時間に『字のないはがき』の筆者になって、父親への手紙を書くことを伝え、そのために本時の学習が必要であることを理解させる。 	<p style="text-align: right;">教</p> <p>人物の言動から、どのように人物像をとらえ、まとめていくかを教える。</p>		
<p>2 人物像をとらえる練習</p> <ul style="list-style-type: none"> 冒頭部分を例に挙げ、人物の言動等から人物像をとらえることを確認する。 文章から、どのような人物かを考え、ノートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 人物の言動等に着目し、人物像をとらえ、まとめる際のポイントを押さえる。 <p>例 「私が女学校1年で初めて親元を離れたときも、三日にあげず手紙をよこした。」</p> <p>問 この表現から父親はどのような人物だということが分かりますか？</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">父は、親元から離れた娘に毎日のように手紙を送る子どもへの愛情が深い人 ポイント：〇〇する～な人</p> <ul style="list-style-type: none"> 「〇〇する～な人」(〇〇:具体的な表現, ~:抽象的な表現)にまとめさせる。 	<p style="text-align: right;">考</p> <p>父親の言動等を手掛かりに人物像を考えさせ、まとめ方を示し表現させる。</p>		
<p>3 父親の言動等から人物像をとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2の学習を生かし、人物像をとらえワークシートにまとめ、交流する。 <p><ワークシート></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%; text-align: center;"> <p>※表現を抜き出す。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>※ 上記表現を踏まえて考えた人物像を、「〇〇する～な人」にまとめる。</p> </td> <td style="width: 20%; text-align: center; vertical-align: middle;"> <p>ページ</p> <p>行</p> <p>父の言動や様子</p> <p>人物像</p> </td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">ことばの力活用POINT</p> <p style="text-align: center;">本文の言葉を手掛かりにして人物像をまとめさせる。</p>	<p>※表現を抜き出す。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>※ 上記表現を踏まえて考えた人物像を、「〇〇する～な人」にまとめる。</p>	<p>ページ</p> <p>行</p> <p>父の言動や様子</p> <p>人物像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを用意し、父親の言動等を手掛かりに人物像をとらえさせる。 書けない生徒には、父親の言動が書かれた箇所を示し、父の心情を想像させる。 <p>【予想される生徒の反応】</p> <p>〇言動「はだして表へ飛び出した。」 →人物像「娘のことが心配で、履き物も履かないで飛び出す子どもへの愛情がとても深い人」</p> <ul style="list-style-type: none"> 隣同士で交流させ、共通点や相違点を確認させる。 全体で交流させ、他の人の発表内容で参考になるところを、ワークシート中に書き加えさせて、人物像の読み取りを深めさせる。 生徒の発表を基に、人物像をまとめる。 同じ部分を抜き出しているも、人物像の表現に幅があることを伝える。 <p>【予想される生徒の反応】</p> <p>子どもを大切にしてくれる父さんでよかった、ぶっきらぼうだけど愛情たっぷりの父が好き、深い愛情をありがとう等</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに筆者の心の声を書く吹き出しを用意する。 人物像の「～な人」を基に、父親に向けての筆者の心の声を考えさせ、記入させる。 生徒の発表を基に、筆者の父親への思いをまとめる。 	<p style="text-align: right;">考</p> <p>父親の言動等を手掛かりに人物像を考えさせ、まとめ方を示し表現させる。</p> <p>「読むこと」 父親の言動等を手掛かりにして、人物像を「〇〇する～な人」にまとめている。(ワークシート)</p>
<p>※表現を抜き出す。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>※ 上記表現を踏まえて考えた人物像を、「〇〇する～な人」にまとめる。</p>	<p>ページ</p> <p>行</p> <p>父の言動や様子</p> <p>人物像</p>			
<p>4 人物像を基に、筆者の父親への思い(心の声)を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートにまとめ、交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> 人物像をとらえ、まとめる際のポイントを確認する。 家で、筆者の父親への思いを意識しながら、本文を朗読してくるよう指示する。 	<p>「読むこと」 とらえた人物像を基に、筆者の父親への思いを書いている。(ワークシート)</p>		
<p>5 本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返る。 家庭学習について理解する。 次時の学習内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 人物像をとらえ、まとめる際のポイントを確認する。 家で、筆者の父親への思いを意識しながら、本文を朗読してくるよう指示する。 			

【高等学校 国語 国語総合】

本時の目標 — 戦国策（「漁父の利」）を読み、文章の内容を表現に即して的確にとらえることができる。

学習活動	指導上の留意事項	評価規準（評価方法）
<p>1 前時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の学習内容を確認する。 <p>2 本時の学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の目標を知る。 <p>3 本文の内容把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 返り点に注意しながら本文を音読する。 ○ 「不」の読み方、「而」が置き字であることについて理解する。 ○ 本文を再度音読する。 ○ 口語訳をする。 ○ 蘇代が語ったたとえ話の内容について考える。 <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ことばの力活用POINT</p> <p>たとえ話の内容を、図に書かせることによりとらえさせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「漁父の利」の意味を理解する。 <p>3 本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習を振り返りながら本文を音読する。 ○ 次時の学習内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢文の構造，返り点の種類と用法について学習したことをノートで確認させ，内容を想起させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>文章の内容を表現に即して的確にとらえよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本文を教師が範読した後，各自で音読させる。しっかりと声を出し，リズムを意識するよう指示する。 ・ 正確に読むことができていない生徒は，個別に指導する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「而」は「しかして」などと読む場合もあることに注意させる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書を手に持ち，全員起立して読むよう指示する。 ・ 一文ずつ，指名して口語訳をさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>どぶがい，しぎ，漁師がそれぞれ何をたたとえたものかを考え，三者の関係を図に書くよう指示する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 戦国時代の話であること，蘇代が遊説家であることなど，教科書の脚注についても丁寧に読む。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 図が書けた生徒は，隣の席の生徒と見せ合うよう指示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>正しく書けている生徒を指名し，図を板書させるとともに，三者の関係について説明させる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 辞書を用いて「漁父の利」が現在どのような意味で使われているかを確認するよう指示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ しっかりと声を出し，リズムを意識するよう指示する。 ・ 本文の書き下し文を書いてくることを家庭での課題とする。次時に学習する「守株」を読んでおくよう指示する。 	<div style="border: 1px solid gray; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="background-color: #0000FF; color: white; border-radius: 50%; padding: 2px 5px; display: inline-block;">教</p> <p>漢文では「ずんば」などの特有の読み方があること，置き字は読まないことを教える。</p> </div> <p>「知識・理解」 訓読のきまりを理解し，正しく音読できる。（観察）</p> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="background-color: #0000FF; color: white; border-radius: 50%; padding: 2px 5px; display: inline-block;">考</p> <p>時代背景を踏まえた上で，じっくりと考えさせる。</p> </div> <p>「読む能力」 文章の内容を表現に即して的確にとらえている。（ノートの記述）</p> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="background-color: #0000FF; color: white; border-radius: 50%; padding: 2px 5px; display: inline-block;">表</p> <p>声の大きさや速さにも注意して説明させる。</p> </div>

【高等学校 芸術 書道 I】

※この指導計画の配当時間は2時間である。

本時の目標 — 古典を参考とした創作とその鑑賞ができる。

学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
<p>1 準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 用具の確認をし, 学習の準備をする。 <p>2 本時の学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の目標を知る。 <p>3 実技</p> <p>構想</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 俳句を選び, 構想を練る。 <p>表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 構想をもとに表現する。 ○ 思いどおりに書けた作品を一枚選ぶ。 <p>鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 6人ずつのグループになり, それぞれの作品の鑑賞をする。 ○ 自分の作品について分析する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ことばの活用POINT</p> <p>自分の思いをことばにさせることで, 自分なりの意味や価値を作らせていく。</p> </div> <p>表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 分析を活かし, 再度表現する。 <p>4 本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 分析カードと作品を提出する。 ○ 用具の片づけを行い, 次時の学習内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 用具・用材がそろっているかを確認させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>古典を参考とした創作とその鑑賞をしよう。</p> </div> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ どの俳句を書くかを決めさせる。 ・ 用具・用材を決めさせる。 どの筆を使うか。 どの紙にするか。 どの墨にするか。 ・ 古典からイメージに合う文字を選び, 集字させる。 ・ 文字のコピーを切り抜いて半紙に置いてみる。 ・ 作業の進まない生徒には, 机間指導をして助言する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 机間指導をして, 運筆について個別に助言する。 <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ よい点, 改善すべき点を付箋に書き, それぞれの作品に貼るよう指示する。 ・ 付箋に書かれた内容を参考としながら, 作品のよい点, 改善すべき点, 表現したときの感想をまとめ, 分析カードに書かせる。付箋は分析カードに貼り直すよう指示する。 ・ 作業の進まない生徒には, 机間指導をして助言する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1～2枚の清書で終わらせるよう指示する。 ・ 後始末の仕方についても確認し, 用具を大切にするように指導する。 	<p>「芸術的な感受や表現の工夫」</p> <p>自らの意図に基づき, 創造的な表現を工夫している。(作品)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">教 考</p> <p>前時までに学習した関戸本古今集の特徴を教科書で確認した上でじっくりと考えるよう指示する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">表</p> <p>それぞれの作品について気付いたことを, できるだけ簡潔に記入するよう指示する。</p> </div> <p>「鑑賞の能力」</p> <p>作品について, そのよさや美しさを深く味わう。(観察・付箋の記述)</p>